

子等參向、伯資敬王等奉仕、

此間内々、廣橋大納言、野宮中納言等、同所參向候詰、西上東實、奉行同參向、

此間出御于清涼殿、御座有兩度、後度一如初、

予管中納言等候詰、事了後被供神饌、申終刻於朝餉御座、着御御服、渡御賢所、重胤朝臣候御裾、殿下依實麗取不參也、

御劔前行、入御御拜御座、胤保獻御笏、御拜引鈴三度、了入御、一如出御儀、

〔大成錄〕御鎮座之法略曰、

中自下陣出下繩一、號之大繩、紅四打、大圓周三寸許、長二間許、此亦綵小繩、紅四打、大圓周一寸許、長二尺許、施鈴、其數二十八也、太經五寸許、

〔春記〕長曆三年十一月四日辛卯、命云、延木、即喜御時、有被改璽、御宮緒事、

〔讀岐典侍日記上〕六月廿日、嘉承二年の事どかし、内河、堀は例さまにもおぼしめされざりし御けし

き、ともすればうちふしがちにて、略七月六日より、御こゝち大事に重らせたまひ、略中せめて

くるしくおぼゆるに、かくして心見ん、やすまりやすると仰られて、枕がみなるを、略のほこを、

御むねの上におかせ給ひたれば、ことにいかにたへさせ給ふらんとみゆるまで、御むねのゆる

ぐさまぞことこのほかに見えさせ給ふ、

〔花園院御記〕應長二年、元和正和元年正月一日丁酉、關白、冬平申云、先日所相尋神靈、靈物朽損之間、被裏

改例事、大治元曆口也、又永仁院、見伏御在位之時被改云云、是院、伏見後仰也、然者今度任彼例、可被裏改之

由申之、即中納言典侍取出之、關白見之、緒絶切之處、少結縫之、二月三日己巳、今日爲方違、參持明

院殿朝覲以前雖不可然、爲御留守儀、略子刻於持明院殿門下、神祇官奉大麻、次鳳蓋寄南階、略中

予入内、璽宮裏物破損之節、口御祝、仰云、是永仁御在位之時、被裏改云云、是程不可破損不審云云、又

新院、後見御在位、正安之比被修理云云、旁以不審、又院仰云、被裏之様御忘却云云、永仁者口口大納

言典侍裏之由にて、永福門院、伏見后藤原鐔子中宮之時、内々人々令裏給云云、十八日甲申、未刻關白參

内、申刻於朝餉、結璽、結緒裏絹等故弊無極、仍改之也、内藏寮進之中納言典侍蔭子奉裏之、先取出璽宮置於朝餉大床子

之上、典侍本所結緒等撤之、二有之一者古物、今一者聊新也、不撤絹、只本之絹ヲ乍置上ヲ二重ニ裏也、古絹依破損